



クローズアップ薬用植物(その3): コガネバナ

学名: *Scutellaria baicalensis*
和名: コガネバナ(黄金花)

植栽場所: 1号圃、7号圃(今春、9号圃より移植。)



<9号圃, 2012.07.18 撮影>

シソ科の多年生草本で、草丈30~60cm。茎は方形で叢生し、基部は横に這い、上部は直立して分枝します(写真:下左)。葉は線状披針形で全縁、無柄で対生。花は穂状花序を枝先につけ、一方に向けた青紫色の唇形花を対生して咲かせます(写真:下右)。

去年は梅雨明け後の7月の開花でしたが、今年は6月上旬に早々と開花し始めました。ただ今年は一斉に開花するでもなく、去年に比べると花つきも少し寂しげです。5月に続いた夏日と当初の空梅雨ですっかり季節を見失い、戸惑っているように感じられます。



<1号圃, 2013.06.21 撮影>



<7号圃, 2013.06.25 撮影>

和名の由来について

青紫色の花を咲かせているのにコガネバナ(黄金花)とは摩訶不思議。その答えは、生薬としても使用される「根」の色にあります。ちょっと可哀相ですが、試しに鉢植で取り置いていた一株を掘り出して根を撮影したものが下の写真(2枚)になります。いかがでしょうか。主根の周皮を少し剥いたら鮮やかな黄色が目飛び込んできました。植物の和名にも奥深いところがありますね。



<2013.06.25 撮影>



<管理事務所に於て, 2013.06.25 撮影>

先にも書いた通り、今年は開花の時期が早まりましたが、一斉に開花せず、分枝ごと順々に花を咲かせていますので、今の様子だと、7月中旬頃まで花を観察してもらえると思います。

また本種が属するシソ科でも、シソ(紫蘇)やハッカ(薄荷)、ケイガイ(荊芥)、メハジキ(目撃)等々、当園にはこれから見頃を迎える薬用植物が盛り沢山です。

ご来園の上、園内を散策しながらゆっくりと観察してください。

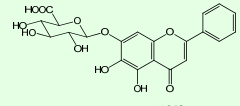
生薬「オウゴン(黄芩)」について

コガネバナの周皮を除いた根は、生薬「オウゴン(黄芩)」として日本薬局方に収載されています。

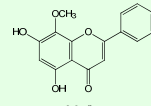
清熱薬(熱を冷ます薬)に属し、胃炎、腸炎などの炎症、充血、下痢、腹痛などを伴う疾患に対して有効とされています。

主要成分として、フラボノイドに分類されるバイカリンやオウゴンなどが含まれています。

フラボノイドは、シキミ酸経路由来のフェニルプロパノイドと酢酸・マロン酸経路由来のポリケチドが縮合する、酢酸・マロン酸-シキミ酸複合経路で生成されます。



バイカリン



オウゴン

黄芩が主薬として配合されている漢方薬について

柴胡剤に分類される漢方処方群に配合されています。柴胡剤はミシマサイコの根を基原とする「柴胡」と「黄芩」を中心生薬として配合された処方群で、その基本処方「小柴胡湯」であります。

小柴胡湯は、攻守のバランスがとれた7種の生薬、「柴胡」、「黄芩」、「半夏」、「人参」、「大棗」、「生姜」、「甘草」で構成されています。



↑ バランス ↓



小柴胡湯の適応症は、「はきけ、食欲不振、胃炎、胃腸虚弱、疲労感及び風邪の後期(3~4日後)の症状、また、慢性肝炎における肝機能障害の改善」

小柴胡湯の使用上の注意は、間質性肺炎が現れることがあるので、発熱、咳嗽、呼吸困難等が現れた場合は、速やかに本剤の投与を中止する。インターフェロン投与中の肝炎患者に対する本剤の投与は禁忌である。

その他の柴胡剤として、柴胡加竜骨牡蛎湯があります。本剤は、基本的には、小柴胡湯に精神安定薬である鉱物生薬の「竜骨」と「牡蛎」、さらに瀉下薬の「大黃」が加わった処方である。この漢方処方は、会社などの中間管理職や定期試験・国家試験前の学生をはじめとする強いストレスにさらされている人の不眠、不安神経症、高血圧症、便秘に有効であります。

5~6月に花を咲かせた薬用植物(一部のみ抜粋)

学名: *Rehmannia glutinosa* var. *purpurea*
和名: アカヤジオウ(赤矢地黄)



<9号圃, 2013.06.05 撮影>

アカヤジオウの根又はそれを蒸したものは、生薬「ジオウ(地黄)」として日本薬局方に収載されています。

学名: *Prunella vulgaris* var. *illicina*
和名: ウツボグサ(藜草/藜草)



<10号圃, 2013.05.21 撮影>

ウツボグサの花穂は、生薬「カゴソウ(夏枯草)」として日本薬局方に収載されています。

学名: *Ephedra sinica*
和名: シナマオウ(支那麻黄)



<8号圃, 2013.05.16 撮影>

シナマオウの地上茎は、生薬「マオウ(麻黄)」として日本薬局方に収載されています。

学名: *Paeonia lactiflora*
和名: シャクヤク(芍薬)



<8号圃, 2013.05.16 撮影>

シャクヤクの根は、生薬「シャクヤク(芍薬)」として日本薬局方に収載されています。

学名: *Lonicera japonica*
和名: スイカズラ(忍冬)



<11号圃, 2013.05.30 撮影>

スイカズラの葉及び茎は、生薬「ニンドウ(忍冬)」として日本薬局方に収載されています。

学名: *Citrus aurantium* var. *daidai*
和名: ダイダイ(橙)



<8号圃, 2013.06.05 撮影>

未熟果実は、生薬「キジツ(枳実)」として成熟した果皮は、生薬「トウヒ(橙皮)」として日本薬局方に収載されています。

学名: *Angelica acutiloba*
和名: トウキ(当帰)



<9号圃, 2013.06.05 撮影>

トウキの根、過期、湯通ししたものは、生薬「トウキ(当帰)」として日本薬局方に収載されています。

学名: *Scopolia japonica*
和名: ハシロコロ(走野菀)



<9号圃, 2013.05.01 撮影>

ハシロコロの根茎及び根は、生薬「シコン(藜蘂)」として日本薬局方に収載されています。

学名: *Lithospermum erythrorhizon*
和名: ムラサキ(紫草)



<3号圃, 2013.05.21 撮影>

ムラサキの根は、生薬「シコン(紫葍)」として日本薬局方に収載されています。

薬草園からのメッセージ

薬草園だより「7月号(第2刊)」は、いかがでしたでしょうか。前回の「4月刊創刊号」では、初めてのA0サイズの紙面構成に戸惑うあまり、ボリュームを詰め込み過ぎ、随分と見づらい紙面になってしまいました。今回は大幅にボリュームを絞り、カラフルな紙面、大きな写真と文字で、少しでも皆様に関心を抱いてもらえたらとリニューアルを施したつもりです。

さて、5~6月には演習実習の一環として、薬学部 1年次生の皆さんに当園まで足を運んでいただきました。1年次生の皆さん、いかがでしたか。

熱心に薬用植物を観察していた貴方、手当たり次第に葉っぱを口に入れていた貴男、飛来する虫にただ怯えていた貴女も、機会があれば、否、ぜひ機会をつくってまた足を運び、時季折々でまったく異なった表情を見せる当園を散策、薬用植物をゆっくりと観察しながらリフレッシュしてくださいね。

当園の魅力は種々の花の美しさだけにとどまりません。園内には薬樹を含め、多くの果樹が植えられています。アンズにウメ、スモモ等は既に時季を終えましたが、ブルーベリーは今まさに色づき始め、ブドウやキウイ、カキ等は日に日にその実りを大きくしています。

ご来園の際には忘れず、職員にそっと歩み寄り「薬学部から来ました！」と秘密の合言葉を囁いてみてください。何かイイ事、起きるかも…

本紙に対するご意見・ご感想、掲載内容の誤り等のご指摘がございましたら、お手数ですが下記連絡先までお願いします。

有瀬キャンパス内
薬用植物園 美甘康仁(内線: 2719)
E-mail: mikamo@pharm.kobegakuin.ac.jp

